

学びの風便り

リーディングスクール通信7 R5.8.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



特集！学びの改革のあゆみ 鎌田中学校・開智小学校



鎌田中学校 鎌田中学校が目指す学びの重点3つ

鎌田中学校では、以下3つの重点を定め、日々の授業に取り組んでいます。1つ目としては、自分の思いや考えを安心して語ることでできる学びの環境を整えたいと思います。多様な友の多様な考えに触れることが、一人では考えも及ばない着想に至るかもしれません。他者に寛容な学びの集団を形成したいと思います。2つ目としては、教員のちょっとした工夫によって、誰にとっても「わかる」を実感できる学びを提供したいと思います。この工夫としてユニバーサルデザインに着目しています。

これら2つの重点は、学びの基盤です。この基盤をもとに、3つ目としては、探究する学びを一層進めたいと思います。総合的な学習の時間「KMD タイム」は、身近にある「あれ？」「おや？」「どうして？」「なぜかな？」という疑問を出発点に、この解決を図る授業です。疑問の解決のプロセスでは様々な課題に直面しますが、課題を乗り越えるための試行錯誤が学びを深めます。この探究的な学びをKMD タイムだけでなく、各教科でも実現することを目指しています。

以下では、過日行われたKMD タイムでの生徒の学びの様子をお伝えします。

松本の魅力を伝えるパンフレット作り！

「松本を好きになってほしい。そのためにどうしたらいいだろうか？」。この問いに導かれて、1学年のある学級では「松本の魅力を伝えるパンフレット作り」に取り組んでいます。

「これから移住する人向けに松本をアピールしたい」「すでに移住している人向けにまだ知らない松本の魅力を伝えたい」。この2つの願いを実現するために、移住する年齢層の多いシニア層やファミリー層を対象としたパンフレット作りをスタートしています。

生徒はパンフレット作りに前のめりです。担任の先生が「オリジナルティーあふれるパンフレットにしてほしい」と述べると、生徒はすぐに意見を交換します。

- … 松本に住んでいる人じゃなくて、全国から来ている旅行客に話を聞いてみたらどう。
- … えっ、インタビューしたい？
- … でもさ、自分が「シニア」とか見られていると思ったら嫌がる人たちもいるよ。
- … まずは、基本的な知識として、松本に何があるのかネットで調べるのがいいよ。
- … じゃ図書館で調べる人と、タブレットで検索する人に分かれたらいいんじゃない？

安心して自分の意見を述べられる学習環境で、友との意見交換は活気に満ちています。オリジナルティーあふれるパンフレットという未知なるものの完成を目指す好奇心に突き動かされ、生徒は友と協働しながら学習をどんどん深めています。



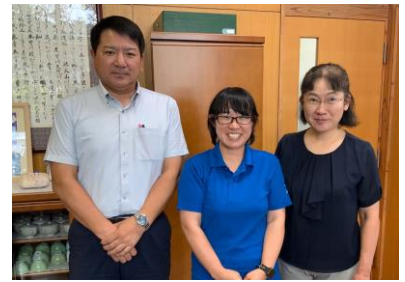
対話しながら松本の魅力を検索している様子

開智小学校 「自分らしさを大切に ともに学び合う子ども」の育ちを願って



学びの改革パイオニア校の指定を受け、全校をあげて「探究の学び」の実践に踏み出した開智小学校。

学校に伺い、玉水校長先生、谷口教頭先生、探究コーディネーターの江口先生に、1学期の歩みをふりかえり、お話をお聴きしました。



教頭先生 江口先生 校長先生

職員室で「探究の学び」について語り合う先生方

谷口教頭先生 1学期の取組を終えて、大きな手応えと感じているのは、職員室で先生方が総合的な学習の時間や生活科の展開や子どもの姿について、対話する姿が日常的になったということです。活動の展開の相談や、授業づくりの悩みなどが話題になることが本当に増えました。初めのころは、「探究の学びってどうすればいいの?」と不安を口にする先生方の声もあったのですが、研修等の全校での取組を重ねてきた今、毎日のように子どもの学びについて語る先生方が増え、とても前向きさを感じます。

創立150周年の節目を契機に

玉水校長先生 開智小学校は今年、創立150周年を迎え、この秋には記念式典が予定されています。この式典の企画段階で、式典を『『地域』をテーマにした子どもたちの学び』を中心に実施したいという願いを先生方と共有しました。これまで、本校の「探究的な学び」への取組は、学級・学年によりまちまちな状況だったのですが、「150周年記念式典で発表」「地域をテーマに学ぶ」という方向を明確にしたことで、先生たちも見通しを持ちやすくなったようです。こうして総合・生活を中心とした「探究的な学び」を中核に学校を創っていかうという方向を皆で共有してきました。式典を約1か月後に控えた今、学校全体が目標に向かって動き始めている実感があります。

先生方の困り感に寄り添った研修を企画

江口先生 探究的な学びの実践経験が少ない先生も前向きな気持ちで取り組めるよう、先生方の様子や困り感をできるだけキャッチしながら「これだったら自分でもできそう」という内容を、その都度考えてきました。例えば、取組みのスタートにあたった4月には、「探究的な学びの進め方」というテーマで、単元構成の構想の方法について、「マッピング」を実際にやってみることで先生方に実感的に学んでいただきました。

総合的な学習のこれからの展開のあり方や悩みについて、相談しあう「チューニング」という手法を連携している風越学園から学び、校内で実践したのですが、これもとても好評でした。ベテランの先生からも「ぜひ、私のクラスもチューニングをお願いしたい」と声が上がりました。今では、毎日のように集まっては自発的に「総合」の相談を行っている学年もあります。



チューニングで協議する先生方

子どもたちも総合・生活をとても楽しみにしている様子があります。開智小の先生方は学習活動の構想にあたって子どもたちの「やってみたい」という願いや思いを大切に単元を構想しており、その分悩みも多いのですが、困ったときに気軽に相談しあえる雰囲気が出ています。

子どもの姿から「つける(育った)力」を把握する

玉水校長先生 子どもの学びの姿はとても活発になっています。ある先生は「私の方が追い付いていけない!」と嬉しい悲鳴を上げているほどです。今後、子どもたちの学びの姿から、子どもたちの中にどのような力が育っているかを私たちが読み取り、私たち自身の学びとして蓄積していくことを大切にしたいと考えています。これを通して「探究の学び」の意味を実感できることを目指していきたいと思えます。

これまで参観させていただいた研修で、開智小の先生の前向きな様子に、「わくわく」を感じてきました。お話しの中にこのような雰囲気が生まれたヒントがたくさんありました。ありがとうございました。